

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	一号館
所在地 (県・市町村名)	設楽町
記入者名 (管理者)	村田鈴代
記入日	平成 20年 6月 11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域密着型となり、その人が長年暮らしてきた環境、また、地域の顔見知りの人達との交流によってその人らしく、ゆったりとありのままに暮して行って頂きたいと考えます。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	すべての職員が理念について理解をし、それを介護に反映できるようにしていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	どこまでも個人のプライバシーは守るようにし、これからも家族の方や地域の方に理解して頂けるようにしていきたいと考えます。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域的に狭く、受診に出掛けたり、買い物に出掛けた際、顔見知りの方達と会う機会も多いのできっかけを作って行きたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域のお祭りや運動会には参加し、ボランティアの方も時々ホームに来て頂いているが、もう少し地域との関わりを持っていったら良いと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が認知症、その他介護に対しての知識をいろいろな研修に参加して得る事が必要。またそれを役立てるべきだと思います。	○	豊富な知識を得るように、職員も研修等に積極的な参加が必要。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、年1回の評価を事業所の質の確保に最大限に活かして、改善すべき点等、積極的に取り組んでいます。	○	前回と比較し、少しでも向上できるよう評価を真摯に受け止めて改善に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し、委員の方たちから率直な意見等をいただき、サービス向上に活かしています。	○	運営推進会議がマンネリにならないよう、議題を設け活発に意見が出され、サービス向上に取り組みたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、役場・居宅介護支援事業所等を訪問し、情報などの交換を積極的に行っています。	○	地域密着型を機に積極的な連携をとってサービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年役員制度については、役場や社会福祉協議会が主に支援を行っている。	○	制度の理解をし、活用できるように研修会等開催し、勉強したいです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い防止に努めている。	○	高齢者虐待防止法に関する理解・浸透に向けた取り組みを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取って丁寧に説明し、同意を得るようにしている。契約についても契約書を読み、十分な説明をして納得を得た上で契約をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も納得のいく契約等をし、利用者や家族が不安や心配等を抱かないように努めていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし、その不安を職員で話し合い、日々のケアに活かせるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族と常に信頼関係を持ち、苦情、不満等が持ち上がった場合、職員ミーティング等で話し合い、速やかに対応していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、個別に手紙で様子を知らせている。金銭管理は出納帳に記入し、ご家族様へのサインを頂いている。</p>	<p>○</p> <p>写真等も手紙と一緒に同封していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気軽に意見・不満・苦情を出して頂けるような雰囲気を作り、信頼関係を作っている。</p>	<p>○</p> <p>今までは、家族からの不満等の問題も無く、信頼によっていい関係を保持しているので、このまま継続していくのが理想だと思う。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなど月に数回行い、意見交換をしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>職員が自分の意見を出した時には、管理者からのアドバイスがあり、それを参考に自分なりに提案をし、良い方向に持っていけるようにしている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が出来る限り自由な暮らしができるように、ローテーションを考え組んである。</p>	<p>○</p> <p>状況に応じた対応ができるよう、ゆとりの人員確保をお願いしたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ顔なじみの職員が対応するようにしているため、ある程度職員の固定化をしている。利用者は落ち着いた生活を送っている。</p>	<p>○</p> <p>固定化することで利用者に対する理解が深まり、体調管理等の細かい部分も把握できる。また、利用者に対してダメージは最小限になると思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A課程・B課程・AA課程など、法人主催の職員研修に参加しています。	○ 研修終了後、研修レポートの提出をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して、同業者と交流をしている。	○ 他の事業所やグループホームへの見学をして、事業所以外の人材の意見や経験を聞き勉強したいと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人で決められた時間を毎日取ることは不可能なので利用者と話をしたり、一緒にテレビを観て心身を休める時間を確保している。また、管理者との面談により職員のストレスを緩和している。	○ 身体的な管理も年2回健康診断をして、異常が無いように心身共に管理されている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が意欲を持って働く事が出来るよう、資格取得に向けた支援を行い、取得後は職員が向上心を持って働けるような対応をしている。	○ 身体的な管理も年2回健康診断をして、異常が無いように心身ともに管理されている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の生活状態をよく聞き、本人の求めている事を知るようにしている。	○ ご家族・本人様から細かく情報収集をして、できるだけ本人の話を傾聴するようにし、状況を把握するようにしています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談に見えた時、情報収集を詳しく聞き、受け止める努力をしている。また、家族が今、何に困っているか、十分に話を聞くようにしている。	○ 今、家族が一番どのような事に困っているかを把握し、十分な対応を心掛け、安心して信頼関係ができるよう努力しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して可能な限り、柔軟な対応を行っている。	○	必要に応じて他のサービス機関につなげていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の家族に事業所を見学して頂いている、家族等の状況で急がれる場合、家族等と十分話し合いながら、本人と家族にあった個別の利用開始の調整を行っている。	○	家族のそれまでかかわった関係者にも来て頂き、安心感を持ってもらうようにする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そういった場面が多くもてるように工夫の声掛けに配慮している。	○	本人の思いの根本にある苦しみ・不安・喜びなど知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝えることで本人を支えていくための協力関係が築けるようにしている。	○	本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を面会時等を通して報告・相談している。	○	家族・本人の思いの状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、ホームで行う企画行事に家族を誘う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人にも面会して頂いている。	○	事業所を利用しても今までの生活の延長線上であるよう配慮する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。	○	お茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族から相談があった場合、随時相談に乗っている。	○	事業所に気楽に立ち寄って頂けるような雰囲気を作るようにしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声掛けし、思いを話していただいている。また、言葉にしやすい思いを行動や表情からそれとなく確認するようにしている。	○	本人にとってどのように暮すことが最良なのか、家族を交え検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に楽しく昔話を話して頂いたり、家族や知人等の面会時など少しずつ把握に努めている。	○	家族に生活歴等を把握する事の意味や重要性を説明し、情報を伝えてもらっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	摂取量や排泄などの時間をチェックし、体調の変化を把握している。	○	日々の暮らしの中でできる力、分かる力の発見に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、ケアに反映させるようにしている。	○	本人や家族の要望を聞き、課題となることを職員間で話し、介護計画の作成に活かしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも3ヵ月に1回、モニタリングを行い、現状に応じたケアプランを作成している。	○	家族や本人の要望を取り入れつつ、現状とケアプランとの違いがないよう、実情に応じたケアにつながるようなケアプランの見直しをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事・水分摂取量・排便等、身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録している。いつでも、全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。	○	個別記録を基に介護計画の見直しの評価を実施している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況の要望を軸に臨機応変に対応している。	○	今後も柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力していく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、関係機関と意見交換する機会を設けている。	○	地域の機関等と協力しながら、必要に応じた対応をしていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて適切に事業所以外のサービスとつなげるよう、外部のケアマネジャーと連携を図っている。	○	月に一回、利用者の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のサービス事業者・関係団体・民生委員・一般住民等によって、構成される方達と認知症の方を地域で支えるため、協働しています。	○	今後も周辺情報や支援に関する情報交換協力関係を築いていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている受診は、ご本人やご家族様の希望に応じて対応している。	○	家族等と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医と話し合いや情報のやり取りを通して関係を築いていく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の医療にも熱心で家族や職員の話をよく聞き、日常の利用者の姿を通して、適切な指示や助言をしてくれる医師を地域で確保している。	○	常に協力医と連携を結んでおり、必要性がある時には最も適切だと思われる所に紹介状を書いて頂き、受診へとつなげている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特に看護職との協働はしていない。	○	看護職員を配置し、日頃の健康管理の状態変化に応じた支援を行えるようにしたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による本人のストレスや負担を軽減するために、医師と話す機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。	○	入院時には、家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報の提供や話し合いを行い、速やかな退院支援に結び付けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、序行書が対応しうる最大の支援方法を踏まえ、職員で話し合っている。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように日常の健康管理や急変時に対応出来るよう、話し合いと方針の統一に努める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心と安全を確保し、より良く暮らすために対応が可能な事、困難な事等を職員全体で率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながら支援している。	○	利用者が急変した場合は、すぐに対応して頂けるよう医療機関とも連携を図り対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、ケアプランや支援状況(退所サマリ)等を手渡すと共に情報交換を行っている。	○	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように個別情報の伝達等プライバシーに配慮して行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他のご家族やご面会に来られた外来者に対して本人のプライバシーに関わる事を話さないように徹底している。	○ 人前で恥をかかせる様な介護をしたり、命令口調や見下したような声掛けの仕方での誘導をするような声掛けをして、本人を傷つけないような言葉かけや対応に配慮し、コミュニケーションを取れるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が難しい利用者様に対して、職員は利用者様の表情や動作で意思を読み取って理解をし、どんな事でもご本人に決めて頂くよう、支援している。	○ 職員が決めたことを押し付けず、複数の選択肢を提案し、利用者様が自分で決めて頂く様にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者様の体調を配慮し、その場の利用者様の気持ちを理解して尊重し、出来る限り個別性のある支援を行っている。	○ 買い物や散歩等、その時の利用者様の体調や気持ちに配慮しながら対応している。今後も取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、見守りや支援が必要などときには援助するようにしている。自己決定がしにくい利用者様には職員と一緒に考え、本人の気持ちを尊重した支援を心掛けている。	○ 女性の利用者様が多いことから日頃より化粧やおしゃれを楽しんで頂けるように取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等を利用者様と一緒にを行い、職員と利用者様が同じテーブルで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。	○ 個々に好みに違いはあると思うが、献立作りから利用者様と相談しながら、決めるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコールとタバコは提供していない。	○ 基本的に好みの物は利用者様の状況に合わせて提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、時間・習慣を把握し、トイレでの排泄を促し失敗をなくすよう、配慮している。紙パンツ・オムツ等の使用を減らし、極力トイレで排泄が出来るように配慮している。	○	失敗をしてしまった時、本人が傷つかないように配慮する点をもっと職員同士で話し合って支援していきたい。トイレ誘導に応じて頂けない利用者の対応策を考え、個々の時間・習慣の詳細を把握する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼間に入浴しているが、職員が一方的に決めず、利用者様のその時の状況や希望を確認しながら入浴して頂く。順番なども利用者様が楽しく気持ちよく入浴して頂ける様、配慮する。	○	本人の希望や体調に合わせた対応で援助していけると良い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動をして頂き、夜間ゆったりと睡眠が取れるよう、生活リズムを整える様支援している。また、体調に合わせて休んでいただけるよう支援している。就寝できない場合、温かい飲み物を頂いたり、お話をしたりして安眠できるよう配慮している。	○	昼間、休んでいる方を無理矢理起こし、活動させるのではなく、その時の状況に合わせて休息したり、活動に参加して頂けるように支援する。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や農作業・工作など個々の昔からの力や知恵・経験を発揮できるような雰囲気作りを支援している。昔ながらの遊びや歌で楽しんで気分転換をして頂ける様に支援している。	○	家事労働は毎日同じ事の繰り返しでマンネリ化しやすい為、日々方法を変えたりして行うようにする。娯楽もマンネリ化しないように工夫をし、利用者様が全員で楽しめるよう職員が配慮する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力の応じ、できる人には小額ではあるが、家族より預かり管理している。家族より預かったお小遣いは施設が管理しているため、利用者様がお金に触れる機会はほとんどない。	○	ご家族より預かったお小遣いは施設が管理している為、利用者様が手元に持つことは無い。支払いを職員が行うことが多く、利用者様が金銭に触れる事は少ない。できる利用者様には職員が付き添い見守りながら支払い、お金に触れる機会を作る必要がある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日や利用者様の体調により、施設内だけで過ごすだけでなく外へ行き、外気浴・散歩・体操をしたりして過ごしている。	○	日常的に外出する事がほとんど無いのが現状である為、買い物をするなど気分転換もできる様、外出の機会を増やしていけるように支援して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	企画書を通じ、普段出掛けられない場所へ外出したり、利用者様の要望に応じ、外出や買い物に出掛けられるよう支援している。家族にも協力して頂きながら外出できるよう支援している。	○	利用者様の要望に必ずしも答えられている訳ではないが、職員の勤務や日程調整など工夫をして利用者様の要望に答えられるよう支援していく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が利用者様のご家族へ毎日の様子を手紙にて報告している。一部の利用者様には本人様が手紙を書くなどをしている。	○	家族や大切な人へ連絡を取りたいと要望があった場合、手紙の容易や電話をしやすい雰囲気作りをし、プライバシーなどに配慮する。自ら連絡を取ることが難しい利用者様は職員が定期的に連絡を取るようにする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔や挨拶を忘れず、室内に季節ごとの飾りつけなどを工夫して、自然な形でご家族や友人を歓迎し、明るいつもりの雰囲気作りをしている。	○	訪問者様のご都合の良い時間帯に気軽に来て頂ける様、スペースを作ったり、居心地の良い空間作りを心掛け、気兼ねなく訪問して頂けるようにする。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り自覚をしない身体拘束が行われていないか、職員同士で確認・点検をしている。	○	職員同士での話し合いの場を持ち、利用者様の人権を守ることがケアの基本であるという認識を持ち、身体拘束が行われていないかを確認・点検をする必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵をかけることを常態化せず、利用者様、外出しそうな様子を察知し、止めるのではなくさりげなく声掛けしたり、一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	○	職員の都合で利用者様が外へ出たくても、止めてしまうことが多く、不快な思いをさせてしまう事もあるため、日中、玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援できるように、どのようにすべきかを、もっと検討しなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は記録等を書く時も利用者様と同じ空間にいて、全員の状況を把握できるようにしている。夜間はセンサーを使用し、こまめに見回りする事で利用者の様子を確認し、転倒・転落を防止している。	○	見守り・見回りについて今まで継続し、昼夜問わず、常に利用者様の確認など安全に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が生じる恐れのある物品は利用者様の見えない場所に置き、使用が必要な場合は職員が見守りをして使用していただく。薬・洗剤等は職員が管理し、必要に応じて見守りをして使用・服薬をして頂く。	○	職員が見守りをし、使用・服用して頂く様、継続していくことはもちろん、利用者様の状態変化によっては注意を促していくなど、ケースに応じた対応をし、危険を防ぐ取り組みを協力し合いながら配慮していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な方の見守りや誤嚥の可能性、又は、飲み込みの弱い方への食事介助等、利用者の状態を把握し、事故を事前に防ぐことができるよう取り組んでいる。事故が起きてしまった場合、事故報告書を作成し、今後の対応・予防につなげている。	○	利用者様の状態を日々詳しく観察し、事前に事故を防ぐための対応策を検討しなければならない。万が一、事故が起きてしまったとき、すばやくバイタルチェックなど対応をし、情報共有の場を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署などの協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施したり、職員全てが緊急時に備え、対応出来るように行っています。夜間時にはマニュアルを基に対応出来るようにしています。	○	今後も消防署の協力を得ていざという時には救急手当や心肺蘇生法が自信を持ってできるように取り組みたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認、又は消火器の位置、使い方を利用者様と共に行っています。	○	今後も消防署、又は地域の方の参加・協力を得ながらの働きかけを増やし、定期的に避難訓練をし、状況に合わせた避難方法・経路を考えておく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に見えた時には、詳しく説明をしご家族様とコミュニケーションを計り、利用者様の現在の状態と状況の把握をして頂いたり、毎月、家族様レターで体調・様子を伝えています。	○	状況変化に応じて、利用者様の体調やリスクをしっかりと理解し、繰り返し対応策等を話し合ったり見直していきたくです。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、常に体調の変化に気づく様に、様子を観察しています。また、普段の状態をよく把握し、体調医の変化が見られた時には詳しく記録をつける。	○	利用者様におこった些細な事でも直ぐに管理者へ報告をすると共に指示を頂き、迅速かつ確実に対応出来るよう、これから取り組んで行きたいと思っています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、本人に手渡しをしてきちんと服薬出来ているか、確認させて頂いています。体調変化が見られた時には詳細記録を取り、早めに病院受診をしています。	○	薬剤情報に目を通し、薬の内容を正しく理解し、服薬の支援を深めたいと思います。薬の目的や副作用についても正しく理解する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、朝夕の2回ヨーグルトを提供し、薬に頼らず自然排便が出来るよう努め、またリハビリ体操・ラジオ体操などの運動への参加を促し、便秘予防に努めています。	○	出来るだけ、自然排便が出来るよう、食事・運動・水分補給等に工夫をし、取り組んで行きたいと思っています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて見守りをしたり、介助を行っています。就寝前には義歯を取り洗浄を行っています。	○	自立支援を促しながら、一人一人の口腔状態に応じた支援をしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合った食事形態・量を考え、また食事の摂取状況も毎日チェック表に記録し、毎日の献立は栄養バランスを考えながら提供しています。	○	季節やその日の室温等に合わせ、また一人一人状態や習慣に応じた支援をして行きたいです。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様の家族様に同意を頂き、また職員もインフルエンザ予防接種を受けています。また、手洗い・うがいの呼びかけをし、床・ソファ・手すり等毎日除菌し、清潔を保ち予防に取り組んでいます。	○	常に清潔を保ち、予防に努め、天気の良い日には布団干しをし、これからも感染症に対する予防や対応等学び知識を深めたいです。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等、毎日漂白し、冷蔵庫も清潔を保ち、食材には購入・日付を記入・残ってしまった食材は次の職員に使用して頂くようにしています。	○	お茶・薬を服用する湯冷ましは、日時を記入し、新鮮で安全な食材を提供しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外の大きな門は開けてあります。中の小さな門は閉めてありますが、いつでも出入り出来るようになっていきます。ベンチ等があり、アットホームな雰囲気になっています。	○	花などを増やし、気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに工夫をしたいです。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの上には、季節の花が飾ってあります。壁面には利用者様と一緒に作りました。季節感を味わえる工作などが飾ってあります。	○	居室の入り口などにのれんをつけ、プライバシーを守るように工夫をしています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファと掘りコタツがあり、利用者様同士がそれぞれに好きな場所で過ごせ、外にはベンチがあり、外気浴等をしながらかたわぶできるペースがあります。	○	一人になれる場所は居室しかありませんので、間仕切りなどで個室空間が出来ればと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様の好みの物や馴染みの物を生活スタイルに合わせて持ち込め、安心して過ごして頂けるようになっていきます。	○	利用者様の状態に合わせての空間作りをしていきたいと思えます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ・汚物室には消臭剤を置いたり、換気扇などで悪臭が出ないように工夫しています。居室内は、利用者様がホールまた、日光浴をされている時は扉・窓など開けて空気の入換えを行っています。	○	悪臭防止に努め、工夫を少しでも気持ちよく過ごせるよう配慮をして行きたいです。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態に合わせて車椅子対応をしたり、杖・シルバーカー等を使用し、安全確保に努めています。	○	居室の出入り口のところにセンサー設置してあります。さらに自立した生活が安全に送れるように工夫し、支援して行きたいです。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様一人一人のADL状態を把握し、何を援助すれば良いのか見極め、自立支援に努めています。	○	一人一人の思いを受け入れ、安心して過ごして頂けるよう工夫し、話し合いながら支援して行きたいです。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内に畑がありますので、日常的に利用者さまが楽しみながら活動しています。	○	利用者様が楽しんで頂ける企画を立て、活動して行きたいです。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議を通して地域の方に施設のことを知って頂こうと取り組んでいます。